

バジェグランデ市のごみリサイクルプロジェクトで、2017年1月からDIFAR現地コーディネーターとして勤務しているリセさんから、ご自身のことや活動に対する思いを寄稿いただきました。熱意をもって活動に取り組んでおられる姿が伝わってくるとともに、一人の母として女性として、家族を大切にしたい思いを大切にしながら、仕事に向き合っておられる姿が伝わります。

## 活動報告

リセ・メナチョ・グティエレス

私はリセ・メナチョ・グティエレスといいます。ボリビア人で、コスタリカの地球大学を2012年に卒業しました。そして2017年1月31日から、バジェグランデ市のリサイクルプロジェクトにコーディネーターとして勤務しています。私にとってこの仕事はとても素晴らしく、20か月になる女の子がいて、日々彼女の近くにいる世話をしながらも、コーディネーターとしての日々の仕事を楽しんでいます。同時に、これは私にとって、家族の絆を持続する挑戦でもあります。なぜなら、私の夫はバジェグランデから64km離れたところで仕事をしていて、週末だけしか会うことができないのです。家族の絆を大事にしながら、同時に仕事のチームの絆も維持しており、それぞれがそれぞれの活動を全うしています。

このプロジェクトのおかげで、私はプロフェッショナルとして成長することができました。22人のチームがそれぞれの役割を全うしながら、全員を1つにまとめることは簡単ではなく、私の忍耐力は増しました。

私の挑戦は、生ごみ堆肥の品質を上げることです。そして、今までのプロジェクトのレベルを下げることなく続けていくことです。また、市民への働きかけ、教育機関への働きかけを続けながら、市民の信頼を維持していくことでもあります。

私のプロフェッショナルとしての挑戦は、回収トラックの浸出液を減少させ、リサイクルセンターの拡大を達成し、同時に、市民に求められる優れた仕事を続けることです。

そして、私個人の挑戦は、家族の絆を維持し、私の人生の中心であるお姫様(子ども)とともに働き続けることです。



ペットボトルで作ったウサギ小屋



たくさんできている堆肥